

風土記の丘の花だより¹³⁰

今、そしてこれから見られる植物(2022年4月16日)



多くの方が待ちこがれたサトザクラの一種ギョイコウの緑色の花が見事に咲きました。まもなく花の真ん中が紅色になって散っていくことでしょう。安藤塚の北側です。是非ご覧ください。ギョイコウは漢字で「御衣黄」と書いて、昔の高貴な方がお召しになった着物の色に似ている事から名付けられた名前です。



スミレもたくさん咲いてきました。前はタチツボスミレの仲間を紹介しましたが、今回は白いスミレを2つ紹介します。まずはアリアケスミレです。修復古墳の西斜面などに咲いています。白いスミレは少なく、他に似たものもないので分かりやすいと思います。白に紫の細かいスジが入っています。地域や株によっては紫色を帯びた花もあり、有明海の空に例えて名付けられたと言われています。



もう一つの白いスミレは小さな花を咲かせるフモトスミレです。花だけでなく株も小さいので見つけにくいかもしれませんね。葉に斑が入っているのも特徴です。スミレは春の早いうちに一齐に咲きます。風土記の丘の園路を歩くと色々な種類のスミレを見ることができます。花の違いを楽しんでください。



ジュウニヒトエの花が今年も咲いてくれました。でも残念なことに株ごと掘り去られているのが見つかりました。とても希少な花だからではなく、野の花を愛する人なら、どんな野の花に対してもそんなことはしないはず。残り少ない株を皆さんで見守ってください。



希少な草花であと一つイカリソウの花も咲いています。どちらも詳しい場所を書くことは控えますが、こんな草花が風土記の丘で生き続けています。それだけ自然環境が良好だということです。散歩の途中で見つけても、記憶にとどめ、とるのは写真だけにしてくださいね。皆さんのご理解ご協力をお願いします。 松下